DAIDO UNIVERSITY NEWS

DAIDO CAMPUS

ISSUE 113
2025 年
12 月発行

特集

研究・社会連携推進 ラボラトリー開設！ ほか



大同大学
自分が変わる、未来を変える。

研究・社会連携推進ラボラトリーの開設について

研究・社会連携推進センター



1. 狙い

開学以来「産業界の発展に貢献し続けること」を重要な目標の一つとして掲げ、さまざまな共同研究を進めてきました。近年、社会の多様化・複雑化に対応するため、産学官の連携強化、ニーズに基づいた研究開発の推進が求められるようになってきました。

そこで、新たに「研究・社会連携推進ラボラトリー」制度を立ち上げましたので、ご紹介させていただきます。

2. ラボラトリーの概要

(1)産学共同研究ラボラトリー:企業等との共同研究を推進

本学教員が企業等の研究者と協力し、特定の研究分野について研究を行い、本学における研究の高度化及び多様化を図ります。本ラボラトリーでは4つの「ラボラトリー(センター含む)」が活動を開始しています。

(2)社会連携ラボラトリー:地域貢献を推進

本学教員が南区、名古屋市はもとより、企業・地域等の団体と連携し、地域社会の発展向上に努め、本学における社会貢献活動の活性化を図ります。本ラボラトリーでは3つの「ラボラトリー」が活動しています。

(3)基礎・応用研究ラボラトリー:基礎から応用へ、広く社会に役立つ研究を推進

文部科学省などが実施する科学研究費助成事業において、課題が研究代表者として採択された本学教員を構成員とし、基礎から応用にわたる研究を推進します。これにより、新たに知見を創出し、研究成果を広く社会に公表・還元して参ります。本ラボラトリーでは6つの「研究課題」に取り組んでいます。

3. 発足記念交流会

2025年6月13日(金)にラボラトリー制度の発足を記念して、発足記念交流会を開催しました。当日は学内外から130名を超える多くの方にご参加いただきました。

産学共同研究および社会連携ラボラトリーについて、メンバー構成や取り組み状況の報告がありました。その後、X(クロス)棟で、ラボラトリーメンバーとの情報交換会を実施し、基礎・応用研究ラボラトリーの代表者より、研究課題や教員紹介が行われました。また、会場では各ラボラトリーの紹介パネルを配置し、参加者同士が活発な意見交換ができる良い機会になりました。

ラボラトリーの概要

(1)産学共同研究ラボラトリー:企業等との共同研究を推進

①モータ研究センター
②におい・かおり研究センター
③次世代製造技術開発研究ラボラトリー
④人・ロボット協調デザイン研究ラボラトリー

(2)社会連携ラボラトリー:地域貢献を推進

①AQPRラボラトリー(愛知ブランド企業PR)
②コミュニティ防災ラボラトリー
③生産加工ラボラトリー

▲ラボラトリーサイト

(3)基礎・応用研究ラボラトリー:基礎から応用へ、広く社会に役立つ研究を推進

①ブラックホールに特徴的な観測量の理論整備とその近い将来の観測可能性の追求
②遠隔地からの人工音声による話者認識機器詐称の防止に関する研究
③車載センサ信号を用いたドライバ操舵行動の危険性評価手法の開発
④特徴的な耳介形状を持つキャラクタの頭部伝達関数を用いた音響解析と実装
⑤半導体露光用高真空対応イオン液体軸受の低温特性の解明
⑥低周波数成分による圧迫感・振動感を考慮した移動性騒音源の影響評価方法の提案





4. 今後の展開

今回の発足記念交流会は、多くの企業、外部機関の方にご参加いただき、本学の取り組みを紹介・共有する場となりました。今後は、学内の教員同士が学科・専攻の枠を超えた連携を一層強化し、本学独自の視点による研究成果と社会連携活動をさらに充実させ、地域、社会に貢献できる取り組みを推進してまいります。





学生チーム、国際大会ファイナリストとして健闘!!



2025年7月17日（木）、大阪・関西万博のEXPOホールにて開催された「ILOユースコングレス」において、大同大学の学生チームが国内外の強豪チームと肩を並べる中で出場しました。この国際コンテストは、国際労働機関（ILO）が主催し、「職場の安全、健康、ウェルビーイング～デジタル時代に生きる私たちの提案～」をテーマに革新的なアイデアを競い合うものです。国内外から50チーム以上が応募し、事前審査を通過した8チーム（国内4、海外4）が最終プレゼンテーションに臨みました。

挑戦したのは学部・学科の枠を越えて集まった12名の学生たちで、若手社員のメンタルヘルスと職場のコミュニケーション課題に着目し、AIとロボティクスを活用した「Otsubone（おつぼね）ロボット」の導入提案を行いました。このロボットは、職場内の相談役として機能し、心理的安全性の向上と業務効率の両立を目指すもので、企業関係者や専門家から高い関心と共感を集めました。

ロボットのデザインを担当した学生、システムを構築した学生、プレゼンテーション資料を作り込んだ学生など、チーム全員が協力し合い、それぞれが自分の得意分野を活かしながら役割を担いました。

「英語での発表は本当に大変でした。準備段階から何度も練習を重ね、発表前日まで原稿を見直しました。仲間と励まし合いながらやり切れたことは、自分にとって大きな自信になりました」と参加学生は振り返ります。

「AIなら、何度質問しても嫌な顔をせずに答えてくれる。そんな存在が、職場にあればきっと安心できるはず。自分自身の経験から、このアイデアを形にしたいと思いました」と企画担当の学生は語ります。

また、別の学生は「私はロボットの目のデザインを担当しました。小さな部分ですが、ロボットの印象を大きく左右する要素です。自分のデザインがチーム全体の提案に生かされたことがうれしかった」と語りました。システム担当の学生からは「締切ぎりぎりまで調整が続きましたが、必ず間に合わせるという気持ちでやり遂げました」と力強い言葉もありました。

チームを指導した教員は「表舞台で発表したメンバーだけでなく、資料やシナリオを支えた学生も含め、全員が重要な役割を果たしました。支える側の存在の大切さを理解し、形にできたことは社会に出ても必ず役立つでしょう」とその努力を高く評価しました。

学生たちにとって、この挑戦は単なる大会出場にとどまらず、仲間とともに試行錯誤し、困難を乗り越える経験となりました。今回得られた自信と達成感は、今後の学びやキャリア形成において大きな糧となるはずです。





参加メンバー

情報学専攻 情報デザインコース：白山 太一（プロジェクトリーダー・プレゼン資料作成）
機械システム工学科：大橋 和奈（資料作成）
機械システム工学科：竹林 弘翔（資料作成）
機械システム工学科：中本 子龍（発表アシスタント・資料作成）
機械システム工学科：増元 智己（台本作成・発表者）
情報システム学科：齊藤 巧（ハードウェア開発・機械学習開発）
情報システム学科：畑中 健汰（瞳のディスプレイ開発）
情報デザイン学科：岩間 可連（ロボット原案・発表者）
情報デザイン学科：小栗 紅音（ロボットデザイン・イラスト作成）
情報デザイン学科：杉浦 あやの（ロボットデザイン・瞳デザイン・発表アシスタント）
情報デザイン学科：松井 朱日里（ロボットデザイン・ロゴ作成）
情報デザイン学科：和田 菜花（ロボットデザイン・イラスト作成）
指導教員：機械システム工学科 吹田 和嗣 教授
情報デザイン学科 舟橋 慶祐 教授





男子ハンドボール部

男子ハンドボール「ネクスト日本代表」に本学から2名が選出されました

本学男子ハンドボール部 情報学部 総合情報学科 4年 岡田広規さんと同学科 3年 黒島太貴さんの2名が、ハンドボール日本代表へのステップアップを目指す若手選手で構成された「ネクスト日本代表」に選出されました。

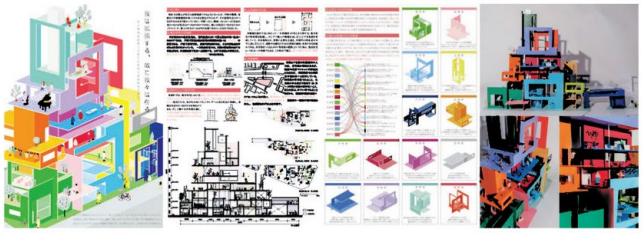
2人はその第一歩として5月31日（土）～6月8日（日）に東京・味の素ナショナルトレーニングセンターにて行われた第1回強化合宿に参加しました。未来の日本代表の候補である両選手に期待がかかります。

日本ハンドボール協会「男子ネクスト日本代表第1回強化合宿と参加メンバーのお知らせ」はこちら
https://handball.or.jp/system/prog/content.php?sd=g&c=1&sc=1&article_idno=1038

福田羽和さん（建築学科 インテリアデザイン専攻）

第56回毎日・DAS学生デザイン賞 大学生の部 建築部門にて入選しました!

毎日新聞社・一般社団法人総合デザイナー協会DASが主催する「第56回毎日・DAS学生デザイン賞 大学生の部」の審査が行われ、工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 船橋研究室 福田羽和さん（2024年度卒業、現 大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 1年）の卒業設計作品「我は拡張する、故に我々は在る」が建築部門にて入選を果たしました。



増元智己さん（機械システム工学科）

ロボティクス・メカトロニクス 講演会2025にて研究発表を行いました

6月4日（水）～7日（土）、山形ビックウイングにて日本機械学会主催のロボティクス・メカトロニクス 講演会 2025が開催され、工学部 機械システム工学科 4年 増元智己さんが研究発表を行いました。

増元さんの研究は、移動ロボットが産業と社会で利活用が加速することを目的とし、RFA規格で標準化された共有マーカに着眼し、使用環境で配色が検出率に及ぼす影響を定量的に検証した内容となります。発表はポスターセッションの形式で行いました。

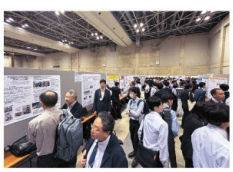
発表者と発表タイトルは下記の通りです。

◆タイトル：RFA 共有マーカーの配色が検出率に及ぼす影響
◆発表者：大同大学：増元 智己、齊藤 巧、畑中 健汰、白山 太一、吹田 和嗣
株式会社Octa Robotics：二渡 寿樹、鍋嶌 厚太

詳細はこちらご覧ください
https://robomech.org/2025/

関連投稿はこちら
https://www.daido-news.jp/du_news/notice/6346.html



加藤大翔さん、三輪建翔さん、下前友雄紀さん、瀬尾優揮さん、高山亮成さん、三好尚輝（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

日本鋳造工学会 第185回全国講演大会で研究発表を行いました

5月23日（金）～26日（月）、公益社団法人日本鋳造工学会が主催する第185回全国講演大会が、大同大学を主会場として開催されました。24日（土）、25日（日）に、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 前田研究室 2年 加藤大翔さんと三輪建翔さん、1年 下前友雄紀さん、瀬尾優揮さん、高山亮成さん、三好尚輝さんが研究発表を行いました。



▲（左から）三輪さん、三好さん、高山さん、瀬尾さん、下前さん、加藤さん

発表者と発表タイトルは下記の通りです。

◆加藤さん
「アルミニウム合金の重力鋳造における機械学習を利用した熱伝達係数の同定」

◆三輪さん
「オイラー系とラグランジュ系シミュレーションによるアルミニウム合金溶湯の鋳造フィルタを有する鋳型内流れ挙動」

◆下前さん
「生型砂搗き固め解析における粒度分布の評価方法検討」

◆瀬尾さん
「ダイカストプランジャ内におけるアルミニウム合金溶湯の波動解析」

◆高山さん
「機械学習を用いた生型砂循環システムにおける冷却プロセスのモデリング」

◆三好さん
「アルミニウム合金の重力鋳造における離型剤が鋳型充填挙動へ及ぼす影響の実験的調査」

日本鋳造工学会のHPはこちら：https://jfs.or.jp/
前田研究室のHPはこちら：https://yasuhiro-maeda.com/

市原慶梧さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

トライボロジー会議2025春にて研究発表を行いました

5月26日（月）～28日（水）、国立オリンピック記念青少年総合センターでトライボロジー会議2025春が開催され、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 1年 市原慶梧さんが研究発表を行いました。市原さんの研究は、真空用デバイスの潤滑剤・導電剤として期待されているイオン液体（室温で液体を維持する溶融塩）の導電性を向上させるために導電性高分子をイオン液体内に分散させた場合の摩擦摩耗特性に関するものであり、発表は口頭にて行いました。この研究では東京大学・生産技術研究所の岡部先生との共同研究であると同時に、工学部 機械工学科 宮本潤示准教授とも連携して行いました。また、この発表では2024年度卒業の機械工学科 岡滉大さんが連名となっています。

発表者と発表タイトルは下記の通りです。

◆タイトル：ポリピロール粒子を分散させたイオン液体のトライボロジー評価
◆発表者：市原慶梧、岡滉大、杣谷啓、宮本潤示、岡部貴雄

白山太一さん（大学院 情報学研究科 情報学専攻）

東海テレビ「ミライCREWスペシャル2025年夏編」に出演しました

7月26日（土）に放送された、東海テレビ「ミライCREWスペシャル 2025年夏編」に、大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 舟橋研究室 白山太一さんが出演しました。内容については、災害用ドローンやロボットとの共存環境などについてナビゲーターの松井珠理奈さんと対談しました。

現在、Locipoで配信されています。ぜひご覧ください。
https://locipo.jp/creative/5afddd81-4107-4488-be7f-d241eb03c9a6?list=7de394c9-d412-4f07-9fc0-b1fb29aa69e5

小木曽力斗さん、福田羽和さん（大学院 工学研究科 建築学専攻）

ヴェネチアで開催中の国際建築展「TIME SPACE EXISTENCE 2025」に出展していました




ヨーロッパ文化センターが主催するヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展関連企画「TIME SPACE EXISTENCE 2025」にて、建築学部 建築学科 船橋仁奈教授、大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 船橋研究室 1年 小木曽力斗さん、福田羽和さんが制作した「窓の可動域が生み出す風景ー歴史的建造物の窓を活用した展示空間の実践ー＜WINDOW SCAPE—Practical use of windows' motion in historic architecture—＞」が展示されていました。

展示会場はPalazzo Bembo（イタリア・ヴェネチア）、開催期間は2025年5月10日（土）～11月23日（日）の約半年間でした。

Website:
https://timespaceexistence.com/the-exhibition/

Catalogue:
https://mailchi.mp/ecc-italy/timespaceexistence2025

岡田広規さん（総合情報学科）

ハンドボール日本代表として男子ハンドボール部の岡田広規さんが日韓定期戦に出場しました!


▲相手とのポジション争いで体を張る岡田さん

本学男子ハンドボール部 情報学部 総合情報学科 岡田広規さんが6月21日（土）、韓国の清州で行われたハンドボール日本代表の日韓定期戦に出場しました。岡田さんは大同大学の選手として初めて日本代表に選出され、試合に先発メンバーとして出場しました。

試合は25対27で韓国代表に惜しくも敗北しましたが、後半の追い上げは見事であと少しで逆転というところまで韓国代表を追い詰めました。試合に出場した岡田さんは「試合では相手プレーの質の高さに圧倒される場面もありましたが、自分の持ち味であるディフェンスでのハードコンタクトを発揮することができたと思います。」と初めての出場に臆することなく自信を深めた様子でした。

また今後の目標を「日本代表のメンバーとして定着していくこと」として「所属している大同大学の恵まれた環境を最大限に活かし、自分の課題に真剣に向き合い、目標達成に向けて努力していく。」と力強く宣言してくれました。今後の岡田さんと日本代表の活躍に益々期待が膨らみます。

7月9日（水）付の中日スポーツには、岡田さんのインタビュー記事が掲載されました。記事では、「今まで感じたことのないプレッシャーや責任感を感じたことや練習環境が整っていることに感謝して練習に取り組みたいなど今後の意気込みについても語っています。

関連記事はコチラ
https://www.daido-news.jp/du_news/student/7047.html


▲（写真左より）高村常務理事、武藤理事長、関戸教諭、岡田さん、佐藤監督、渡邊学長、戸倉校長


▲1984年ロサンゼルスオリンピック代表の高村常務理事と2028年ロサンゼルスオリンピック代表を目指す岡田さんのツーショット

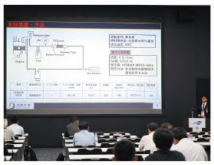
長瀬慎之介さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

人とくるまのテクノロジー展 2025 NAGOYA 研究発表会で発表を行いました

7月16日（水）～18日（金）、愛知県のAichi Sky Expoにおいて、公益社団法人日本自動車技術会「人とくるまのテクノロジー展 2025 NAGOYA」が開催され、その中で行われた研究発表会で大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 井原研究室 1年 長瀬慎之介さんが「ディーゼル排ガス中有害成分の酸化チタン熱触媒によるリアルタイム処理」という題目で研究成果を発表しました。大学院生や企業で研究開発に携わる若手技術者が、互いにこれまでの研究を発表し、活発な質疑応答が行われました。

人とくるまのテクノロジー展 詳細はこちら
https://aee.expo-info.jsae.or.jp/ja/nagoya/

自動車技術会 詳細はこちら
https://www.jsae.net/chubu/event/detail/?id=2098

▲発表の様子

福田羽和さん、杉山玲那さん、小木曽力斗さん、西尾晟さん、中村來珠さん（建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 卒業生）

公益財団法人乃村文化財団 2025年表彰事業『学生卒業設計・制作 NCF空間ディスプレイアワード』で入賞しました!

7月1日（火）、公益財団法人乃村文化財団が主催する表彰事業『学生卒業設計・制作 NCF空間ディスプレイアワード2025』の表彰状授与式が行われ、建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻 卒業生5名が各賞を受賞しました! 本学学生が当該表彰事業で最優秀賞を受賞するのは初めてのことであり、また被表彰者9名のうち5名が本学学生という結果は快挙といえます。2025年は全国51件のエントリー作品の中から、最優秀賞2件、優秀賞3件、奨励賞4件が表彰されました。

受賞者と作品タイトルは下記の通りです。

◆最優秀賞
福田羽和さん（現 大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 1年）
「我は拡張する、故に我々は在る」（船橋研究室）

◆優秀賞
杉山玲那さん（2024年度 建築学科 インテリアデザイン専攻卒業）
「騒音から奏音へ ー住工混在地域における音風景の提案ー」（船橋研究室）

◆奨励賞
小木曽力斗さん（現 大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 1年）
「都市の劇場 ー仮想境界による狭間の改修ー」（船橋研究室）

◆奨励賞
西尾晟さん（2024年度 建築学科 建築専攻卒業）
「25.1kmに暮らす ー地域鉄道駅再編計画ー」（船橋研究室）

◆奨励賞
中村來珠さん（現 大学院 工学研究科 修士課程 建築学専攻 1年）
「海と記憶の間隙 ー黒島集落における海を取り戻す時層的建築ー」（武藤研究室）

乃村文化財団 NCF空間ディスプレイアワード2025 受賞作品リスト
https://www.nomura-cf.jp/business/award/award_result/



▲乃村文化財団主催『NCF空間ディスプレイアワード2025』表彰状授与式

岡田広規さん（総合情報学科）

男子ハンドボール部の岡田広規さんが日本代表の大会メンバーに選出されました!

本学男子ハンドボール部 情報学部 総合情報学科 岡田広規さんが、8月20日（水）、国立代々木競技場第一体育館で行われたハンドボール日本代表のパリ・サン=ジェルマン ジャパンツアーの大会メンバーに選出されました。パリ・サン=ジェルマンは世界屈指のクラブチームで、今年1月に開催された世界選手権でも所属選手の多くが各国代表として出場した、世界最高峰の銀河系軍団です。そのようなチームとの試合に日本代表として選出された岡田さんは、6月に行われたハンドボール日本代表の日韓定期戦への出場に続いての選出となりました。

PSGジャパンツアー 2025についてはこちら
https://psg2025.handball.or.jp/

岡田さんの日本代表
日韓定期戦出場についての記事はこちら
https://www.daido-news.jp/du_news/student/7047.html

大矢拓海さん、古御門詩月さん（機械工学科）

日本銅学会誌 論文掲載

当研究室では2023-2024日本銅学会の研究助成を受け、レーザを利用したAg-SnO2接点材の合成とCu基板への接合について研究を実施しました。

上記関係者の中で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2024年度修了生 渡邊 静さんが、2024年11月に日本銅学会講演大会で研究成果を発表し、修士論文として提出しました。これをもとに、工学部 機械工学科 2023年度卒業生 大矢拓海さん、古御門詩月さんらの卒業論文と合わせて同学科田中浩司教授がまとめ、同学会の論文誌に投稿しこのたび受理されました。

論文は J-STAGE https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jic/-char/ja に掲載されています。

◆内容：大気酸化+レーザ照射という簡便な方法で、Sn酸化物粒子が分散したAg系接点材を合成した。これはコネクタの接点となる材料で、コネクタピンにはコルソン合金という高強度Cu合金を必要とする。そこでさらにAg系接点材とコルソン合金とのレーザ接合に取り組み、球状のSnO2粒子が分散したまま、Ag/Cu共晶反応を利用した接合に成功した。ただし接合面に膜状のMg-Ni-Si系複合酸化物が形成され、電気抵抗の増加要因となっていた。

近江陽向さん（大学院 工学研究科 都市環境デザイン学専攻）

2024年度中部支部院生・学生発表奨励賞を受賞しました



2024年度中部支部院生・学生発表奨励賞に選考されました。2024年度中部支部院生・学生発表奨励賞の受賞者は2名でした。表彰は、2025年度中部支部大会（2025年9月13日（土）表彰式）で行われました。

【大学院生】
近江陽向（大同大学 大学院 工学研究科 修士課程
都市環境デザイン学専攻 かおりデザインコース 2年）

授賞対象研究発表
テーマ：精油のにおいに対する容認性評価に基づいた
かおり空間デザインへの適用に関する検討
共同研究者：光田恵（大同大学 建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻）
岩井幸一郎（株式会社豊田中央研究所）
早川和美（株式会社豊田中央研究所）
幸田勝典（株式会社豊田中央研究所）

福冨友哉さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

日本熱処理技術協会 中部支部講演大会で優秀賞を受賞しました


▲講演中の福冨さん

日本熱処理技術協会中部支部では、中部地区で活躍する企業や大学が集う講演大会を4月に開催しました。今回は計7件の発表があり、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年 福冨友哉さんが初めて口頭発表し、一般講演優秀賞を受賞しました。

詳細は田中研究室サイトへ
https://www.daido-it.ac.jp/~koutnk/index.html
#chubu-fuku

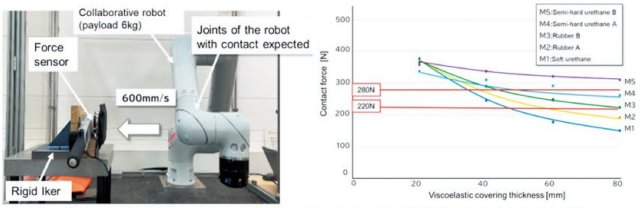
2024年度卒業生 大川優人さん（機械システム工学科）

日本ロボット学会欧文誌に論文掲載されました

工学部 機械システム工学科 吹田研究室ではDIC株式会社との共同研究活動（人とロボットの接触時の力を緩和するための材料開発とその評価）2024年度から実施してきました。この研究活動には、トヨタ自動車株式会社、株式会社デンソーウエーブから技術支援を受けて行っています。2024年度 工学部 機械システム工学科 吹田研究室 卒業生 大川優人さんの卒業研究を、吹田和嗣教授がまとめた学術論文が『日本ロボット学会欧文誌Advanced Robotics』に掲載されました。

この研究ではより使いやすいロボットの協働アプリケーションの実現を目指して、人とロボットの接触時の力を緩和する粘弾性材料を開発し、簡便に安全対策できることが特長です。従来のロボットでは協働作業時のロボットの動作速度を下げるか、人とロボットとの距離を十分にとるなどの安全対策を実施することが多い状況でした。研究内容はそのような状況において安全性と生産性の両立を簡便に改善できる技術となります。また、人とロボットがふれあうシーンが多くなると予想されるサービスロボットなどへの本技術の応用が期待されています。

論文掲載はこちら
https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/01691864.2025.2538178#graphical-abstract



▲人とロボットの接触力緩和の評価実験（右）開発した粘弾性材料の接触力緩和結果（左）

栗原拓斗さん、林郡君さん（大学院 工学研究科 電気・電子工学専攻）

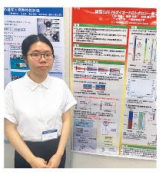
電気学会 産業応用部門大会で研究発表しました

8月19日（火）～21日（木）に徳島大学で、2025年電気学会 産業応用部門大会が開催され、大学院 工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻 服部研究室1年 栗原拓斗さん、林郡君さんが、ヤングエンジニアポスターコンペティションで研究発表を行いました。2つの発表とも70分の発表時間のほとんどに質問者がいるという盛況ぶりでした。


▲栗原さんの発表

発表した研究タイトルは下記の通りです。

◆栗原さんの研究テーマ
「電動車の駆動系システムのEMI解析ベンチの構築」
◆林さんの研究テーマ
「縦型GaN PNダイオードのトポロジー最適化」


▲林さんの発表

竹林弘翔さん、中本子龍さん（機械システム工学科）

第43回日本ロボット学会学術講演会にて研究発表を行いました


▲ポスターセッション講演の竹林さん（左）、中本さん（右）

9月2日（火）～5日（金）、東京科学大学大岡山キャンパスで、日本ロボット学会主催の第43回日本ロボット学会学術講演会が開催され、工学部 機械システム工学科 4年 竹林弘翔さんと中本子龍さんが研究発表を行いました。

竹林さんの研究は、移動ロボットが産業と社会で利活用が加速することを目的とし、RFA規格で標準化された共有マーカに着眼し、実フィールドでの配色が検出率に及ぼす影響を定量的に検証しその支配的な因子を解明した内容となります。また、中本さんの研究は実環境シーンの中で検出率の確保が難しい環境において検出率を高めるために露光時間とゲインの最適化手法について提案しました。発表はそれぞれポスターセッションの形式で行いました。

発表者（○印）と発表タイトルは下記の通りです。

◆RFA共有マーカーの配色が検出率に及ぼす影響 フィールド評価に基づく支配的因子の解明

発表者：大同大学：○竹林 弘翔、中本 子龍、増元 智己、齋藤 巧、畑中 健汰、白山 太一、吹田 和嗣
株式会社Octa Robotics：二渡 寿樹、鍋嶌 厚太


▲発表した竹林さん（左）と中本さん（右）

◆RFA共有マーカーの配色が検出率に及ぼす影響 露光時間とゲインの最適化と提案

発表者：大同大学：○中本 子龍、竹林 弘翔、増元 智己、齋藤 巧、畑中 健汰、白山 太一、吹田 和嗣／**株式会社Octa Robotics：**二渡 寿樹、鍋嶌 厚太

また、2024年度 工学部 機械システム工学科 吹田研究室 卒業生 稲垣椋介さんの卒業研究を、同学科 吹田和嗣教授がまとめた形での発表も行いました。この研究はCKD株式会社、トヨタ自動車株式会社の技術支援を受け、2024年度からEV車のサーキュラーエコノミーと作業者のウエルビーイングの両立を目指して実施してきた研究内容となります。

◆EVバッテリの解体におけるボルト外し作業における合業人体への振動とサイクルタイム低減の評価

発表者：大同大学：稲垣 椋介、○吹田 和嗣

〈関連するリンク〉
https://www.ac.rsj-web.org/2025/index.html
https://www.daido-news.jp/du_news/student/6897.html

志波颯さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

計測自動制御学会中部支部 教育工学研究会で 学生優秀発表賞を受賞しました

9月12日（金）、大同大学にて開催された計測自動制御学会中部支部教育工学研究会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 機械システム工学コース 2年 志波颯さんが、学生優秀発表賞を受賞しました。

志波さんの研究内容はロボットの自律移動技術に欠かせない位置推定に関するものです。特にロボットにとって未知の環境を移動し経路を生成する場合には、環境の地図作成と自分の位置を同時に推定するSLAM（Simultaneous Localization and Mapping）が実行されるのですが、屋外環境を移動する場合には3次元の地図作成と位置推定技術が必要となります。様々な提案手法がありますが、高さ方向の推定精度がなかなかよくありません。現在はセンサの配置に工夫をしながら実証実験を繰り返しています。研究会ではその中間発表を行い優秀なプレゼンテーションが高い評価を得ました。


▲実験で使用している移動ロボットと志波さん

栗原拓斗さん、林郡君さん（大学院 工学研究科 電気・電子工学専攻）

電気・電子・情報関係学会東海支部 連合大会で研究発表しました

9月18日（木）、19日（金）に令和7年度 電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会が信州大学で開催されました。大学院 工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻 服部研究室 1年 栗原拓斗さんと林郡君さんが、口頭で研究発表を行いました。

発表した研究タイトルは下記の通りです。

◆栗原さんの研究テーマ
「PHEV電動駆動系システムの伝導ノイズ評価と伝搬経路の解析」

◆林さんの研究テーマ
「パワー半導体用ダイオードのトポロジー最適化」



▲林さん（左）と栗林さん（右）

加藤光希さん（大学院 工学研究科 機械工学専攻）

金属学会にて研究内容を発表しました



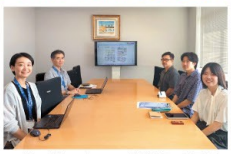
▲加藤さん

9月17日（水）～19日（金）、北海道大学で開催された金属学会秋期公演大会で、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年 加藤光希さんが、ポスターにて研究内容を発表しました。また、大同大学、名古屋大学、あいちシンクロトロン光センターの共同研究内容を高田健教授と名古屋大学の齊藤元貴助教が口頭にて発表しました。

加藤さんの発表：電気抵抗率測定を用いた引張変形中のボイド形成機構の調査
高田教授の発表：等温析出現象の熱力学解析
齊藤助教の発表：STEM ― EDS強度の組成相関図を用いたAl-Mg-Si合金中の時効生成物の解析

鈴木七海さん、斎藤秀介さん（情報デザイン学科）

標識の研究で中部国際空港セントレアに取材しました


▲（左から）セントレアの稲場さん・角貝さん、（右奥から）湯田教授・斉藤さん・鈴木さん

標識のデザインの授業課題の一環で、情報学部 情報デザイン学科 湯田研究室 3年 鈴木七海さん、斎藤秀介さんが、空港内の標識を現地取材しました。空港で使用する案内（サイン）の種類やコンセプト、開港20年を迎え時代の変化やジェンダー問題に対応した見直し作業を行っているなど、現在進行形のお話を空港運用本部の角貝弘志さんに伺いました。その後、館内変更中で新旧混在する標識の見学をしました。セントレアと同級生の二人も活発に質問していました。

村上彰さん、倉田向陽さん（大学院 工学研究科 電気・電子工学専攻）

電気・電子・情報関係学会東海支部 連合大会で研究発表を行いました

9月18日（木）～19日（金）、令和7年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会が信州大学で開催され、大学院 工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻 植田研究室 2年 村上彰さんが「再エネ大量導入時における電力系統故障時の周波数低下に関する慣性の影響の検討」、同専攻 1年 倉田向陽さんが「鉄塔雷撃角度による変電所過電圧への影響」について発表しました。それぞれ座長や参加者からの質問やコメントに対して的確に回答していました。これらの経験は今後の研究に役立つものと思います。


▲（左から）発表者の倉田さん、村上さん

林秀行さん（大学院 研究生）

技術雑誌「機械設計」に解説記事を執筆しました!





▲機械設計の特集記事と林さんが開発した種々の減速機

大学院 研究生 林秀行さんが、技術雑誌「機械設計」10月号の特集に解説記事を執筆しました。「機械設計」は、機械の設計に関わる広範囲のテーマを扱う実務／技術分野にフォーカスした専門雑誌で、各号ごとに特定テーマを深掘りする特集を組んでいます。10月号のテーマは「減速機の最新技術と選定・活用法」で、減速機の機能・技術動向、選定ポイント、メーカー動向などを網羅する形で構成されています。

機械設計 2025年10月号はこちら
https://pub.nikkan.co.jp/book/b10146620.html

村松稔基さん（大学院 情報学研究科 情報学専攻）

日本機械学会第38回計算力学講演会で研究発表を行いました



9月24日（水）～26日（金）、信州大学工学部キャンパスで日本機械学会第38回計算力学講演会が開催され、大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 荻野研究室 村松稔基さんが研究発表を行いました。全国の大学・研究所・企業等の研究者が参加する中、オーガナイズドセッション「大規模並列・連成解析と関連話題」において、題目「領域分割法に基づく並列PINNの性能評価」で発表しました。

この研究は機械学習による偏微分方程式の新たな数値計算法として注目されているPhysics-Informed Neural Network（PINN）の分散並列アルゴリズムに関するものであり、幅広い応用が期待されるものです。今後一層の活躍が期待されます。

日本機械学会計算力学部門のHPはこちら
https://www.jsme.or.jp/cmd/

佐藤綾音さん、中瀬日菜子さん、可児あいりさん、白澤菫さん、伴玲杏さん、三輪天音さん、小川采夏さん、山内颯人さん（建築学科 建築専攻）

第5回『中部商空間賞』学生部門で受賞しました!



▲最優秀賞の佐藤さんと中瀬さんと可児さんによる「切断面からの招待～境界をほどく減築設計～」（左）、金賞の白澤さんと伴さんと三輪さんによる「ファサードが語る歴史」（右）

JCD（一般社団法人 日本商環境デザイン協会）中部支部主催の第5回「中部商空間賞・学生部門」にて、工学部 建築学科 建築専攻 武藤研究室 4年 佐藤綾音さん、同専攻 宇野研究室 4年 中瀬日菜子さん、同学科 インテリアデザイン専攻 武藤研究室 4年 可児あいりさんが最優秀賞を、同学科 建築専攻 米澤研究室 4年 白澤菫さん、同学科 インテリアデザイン専攻 米澤研究室 4年 伴玲杏さん、同専攻 船橋研究室 4年 三輪天音さんが金賞を、同学科 建築専攻 米澤研究室 4年 小川采夏さんが銀賞を、同専攻 船橋研究室 4年 山内颯人さんが銀賞を受賞しました!



◀銀賞の小川さんによる「未来の開拓ー浮遊から生まれる新しい空間ー」（左）、銀賞の山内さんによる「昨日と「違う」を見つける ～曖昧な境界が生む学びの幅の拡張～」（右）

大同大学奨励賞表彰式を行いました



4月12日（土）、公益社団法人日本建築家協会東海支部が主催する『第30回JIA東海学生卒業設計コンクール2025』の二次審査会が行われ、建築学科から3名の卒業生が入賞する結果となり、建築学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 船橋研究室 杉山玲那さんと福田羽和さん、同学科 建築専攻 武藤研究室 中村來珠さんの3名が入賞しました。杉山さんと福田さんは初めての、中村さんは3回目の大同大学奨励賞が授与されました。

6月10日（火）学長室にて大同大学奨励賞受賞式が執り行われました。文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人 工業所有権情報・研修館が共同主催する学生のみを対象とした全国規模のコンペティションである「デザインパテントコンテスト」にて、情報学部 情報デザイン学科 舟橋研究室 加藤碧さん、杉明香里さん、松井朱日里さんがそれぞれ賞を受賞しました。以上の功績は本学の名誉を高める顕著な業績をおさめたものであると認められ、松井さんは2件、加藤さんは今回で2回目、杉さんは今回で3回目の大同大学奨励賞が授与されました。



7月31日（木）学長室にて大同大学奨励賞受賞式が執り行われました。公益財団法人乃村文化財団が主催する「学生卒業設計・制作 NCF 空間ディスプレイアワード2025」における表彰事業選考の結果、建築学科から5名の卒業生が入賞する結果となりました。入賞したのは、建築学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 船橋研究室の卒業生である小木曽 力斗さん、西尾 晟さん、杉山玲那さん、福田羽和さんと、建築学部 建築学科 建築専攻 武藤研究室の卒業生である中村來珠さんの5名です。西尾さんは初受賞、杉山さんは2回目、福田さんと小木曽さんは3回目、中村さんは4回目の大同大学奨励賞の受賞となりました。



男子ハンドボール部OBの佐藤快さんがスポーツメディア「PEN&SPORTS」に大きく取り上げられました

本学男子ハンドボール部OBで、2024-25シーズン限りでリーグHの大同特殊鋼 Phenix TOKAIを引退した佐藤快さん（2019年総合情報学科卒業）が、スポーツ特化型メディア「PEN&SPORTS」で大きく取り上げられました。

記事では佐藤さんの現役生活がケガと隣り合わせの困難に満ちたものであったこと、ケガをしていてもその時々で自身ができることに全力で取り組んできたこと、現役最後のシーズンではプレーオフのコートに初めて立ち活躍したことなどが紹介されています。また佐藤さんの父親で、本学男子ハンドボール部監督の情報学部 総合情報学科 佐藤壮一郎教授とのエピソードも必読です。

引退後はスペインにコーチ留学し自身の夢を追いかける佐藤さんの、感動的で読み応えのある記事をぜひご一読ください。

佐藤さんの記事はこちら
https://sports.pen-and.co.jp/daido-sato-kai/

関連記事はこちら
https://www.daido-news.jp/du_news/notice/6768.html

ロボット研究部

第34回BRAVEで優勝、3位、スピードスター賞、アイドル賞を受賞しました

3月23日（日）に行われた第34回BRAVEで、ロボット研究部の工学部 機械システム工学科 3年 三宅正也さんが優勝、同学科 3年 森宥翔さんが3位入賞およびスピードスター賞を、同学科 2年 東原歩夢さんがアイドル賞をそれぞれ受賞しました。BRAVEとは、凹凸のあるフィールド上で複数のロボットがバトルロワイヤル形式で戦う無線ロボット競技です。ロボットは授業やロボット研究部で学んだCADで設計を行い、ロボット工房にあるNC工作機を用いて部品レベルから製作しました。本学のロボット研究部はこの大会の常連で、毎回複数名がエントリーし、これまでに数々の賞を獲得してきました。

三宅さんは過去にこの競技会で複数回入賞し、優勝経験もあるロボット研究部のエースです。高性能な機体の製作技術に加えて、熟練した操作技術を駆使して順調に勝ち進み、決勝へと駒を進めました。決勝では互いに一歩も引かない一進一退の攻防の末、見事優勝することができ、前回準優勝の雪辱を果たしました。

森さんは優勝した三宅さんと同期のライバルであり、そのロボットは高速回転するナタを武器に派手な戦いを繰り広げます。相手の機体を場外まで弾き飛ばしてしまうような強力な戦闘力で3位入賞しましたが、その制圧の速さは圧倒的で、スピードスター賞も併せて受賞しました。

東原さんは三宅さんや森さんの1年後輩です。両先輩から刺激を受けて、今大会ではスタイリッシュで大柄な機体を製作して臨みました。残念ながら上位入賞を果たすことはできませんでしたが、その巨体を活用した迫力のある攻撃が参加者の注目を集め、一番印象に残ったロボットを参加者による投票で決めるアイドル賞に見事選出されました。

他の部員も前回よりも故障などのトラブルが少なくなっており、ロボット研究部としても全体のレベルアップに繋がる有意義な大会となりました。


▲受賞した三宅さん


▲受賞した森さん


▲受賞した東原さん

女子ハンドボール部

Jiangsu handball team・HC名古屋・大同大学女子ハンドボール部で練習試合を実施しました

6月7日（土）、日本での強化合宿中の中国No. 1のクラブチームのJiangsu handball team（中国代表選手7名所属）と日本のHリーグチームのHC名古屋と大同大学との3チームで練習試合を実施しました。180センチを超える選手が多い中、本学選手も少ない人数で頑張りました。今回の練習試合は、国際交流を含め選手にとって大変良い経験となりました。






▲練習風景

大同大学 大学祭「第60回宴祭」が開催されました!

5月17日（土）、18日（日）の2日間で大同大学「第60回宴祭」を実施しました。今年の宴祭のテーマは「黎明～Be Fearless～」。初日の11時、雨の降る中始まったオープニング、学長挨拶に続き、吹奏楽団の演奏を終えたころには雨も上がって二日間、盛況のうちに無事終了することができました。ステージではクラブ発表やカラオケ・ゲーム大会、校舎では大学・大同高校のクラブ展示やちびっ子の遊び場わらべ村・ウォークラリー、後夜祭では三井化学株式会社様からお借りしたなごやかスクエアで、プロコンサートやダンスを行い幕を閉じました。来年度もぜひ、ご期待ください。




▲当日の様子

ボランティア研究会

流しそうめんで夏の思い出を：児童養護施設での夏のイベントに参加しました


▲ボランティア活動メンバー


▲名南LCの皆さんと

8月1日（金）、名古屋名南ライオンズクラブの主催により、児童養護施設で「流しそうめんアクティビティ」が開催されました。今回、この催しには、本学のボランティア研究会も協力させていただきました。

当日の名古屋市は37℃近く連日の猛暑でしたが、会場には子どもたちの笑顔があふれる一日となりました。流しそうめんでは、冷たいそうめんを器用にキャッチして楽しむ姿が見られ、スイカ割りでは目隠しをした子どもたちの真剣な表情と、スイカが割れた瞬間の歓声が施設内に響き渡りました。このイベントは、「児童養護施設の子どもたちに、夏休みに一つでも多くの楽しい思い出を作ってほしい」という名南ライオンズクラブの願いから実施されたものです。今回初めて、本学ボランティアサークルのメンバーも、当日の運営をお手伝いをさせていただきました。子どもたちの笑顔にふれ、共に過ごす中で、学生自身も貴重な経験と学びを得ることができました。

参加した学生からは、「子供たち、またライオンズクラブの皆さんと沢山お話が出来とても有意義な時間にすることが出来たと感じています。子供たちは流しそうめんで一緒に流れてくるグミやゼリーも一生懸命取っており、それを私たちにも分けてくれる優しい子ばかりでした。ライオンズクラブの方にはとても親切にしていただき、おにぎりや水分なども頂き本当に暖かい人達に囲まれ楽しい1日となりました。」という感想を共有してもらいました。

関連URL
名古屋名南ライオンズクラブ
http://meinan-lions.com/
ボランティア研究会インスタグラム
https://www.instagram.com/daido_uni.volunteer?igsh=MWJvN2tqbWgzYzFuZQ%3D%3D&utm_source=qr

バレー部OBの備一真さんがポーランド1部へ移籍!





大同大学バレーボール部卒業生の備一真さんが、延長オプション付きの5か月契約でポーランドのプルス・リーガ（ポーランド1部）のヘウムへ移籍します。鹿児島県出身で、ポジションはリベロです。今後の活躍に期待しています。

ニュース記事はこちら
https://news.yahoo.co.jp/articles/adaaba9e36c4927c8f6023c00b6f53ebba29aa0

2025年度前期学位記授与式を挙行しました

9月19日（金）、滝春キャンパスA棟2階第一会議室にて、2025年度前期学位記授与式を挙行しました。渡邊学長より一人ひとりに学位記が授与されました。

【卒業生内訳】

建築学部	建築学科	2名
情報学部	情報システム学科	1名
大学院	工学研究科 修士課程 建築学専攻	1名


▲学位記授与の様子

ロボット研究部

第30回かわさきロボット競技大会で準優勝、3位の成績を収めました!

9月7日（日）に行われた第30回かわさきロボット競技大会にロボット研究部から2チームが出場し、それぞれ準優勝、3位の成績を収めることができました。かわさきロボット競技大会とは、ラジコンカーに武器となる脚・腕構造を付与したロボットによる異種格闘技戦です。

準優勝を収めたのは、工学部 機械システム工学科 4年 三宅正也さんをキャプテン（＝ロボット操縦者）とする同学科 4年 森宥翔さんから成るチームです。三宅さんは様々な競技大会で成果を残し、競合他校にも注目されるロボット研究部のエースです。持ち前の操作技術で危なげなく予選を突破しますが、決勝トーナメントでは過去にこの大会の優勝経験のある本学ロボット研究部の先輩OBと対戦することになります。この先輩OBは今でもロボット研究部を訪れることがあり、三宅さんとは何度も練習試合をしています。そんな2人の対戦は三宅さんが勝利し、三宅さんが3位以上の順位を決定する順位決定戦に出場を決めました。

3位の成績を収めたのは情報学部 情報システム学科 4年 行方祐介さんをキャプテンとする大学院 研究生 林秀行さんから成るチームです。行方さんも三宅さんと同様に様々な競技大会で成果を残していて、このロボット大会では、直近で2連覇を達成している大注目の選手の一人です。行方さんは予選からこの大会で上位入賞の常連である強敵との対戦が続きましたが、今大会のために新たに製作したロボットを用いて着実に勝ち進んで行きました。決勝トーナメントでは、対戦相手にロボットを大きく破壊されますが、林さんと協力して修復することで何とか試合に辛勝することができ、順位決定戦に出場を決めました。

順位決定戦では3チーム総当たりで対戦を行うため、三宅さんと行方さんの直接対決も実現しました。社会人も多く出場するこの大会では、現役の学生であり、同じ大学の2人の対戦は非常に大きな注目を集めることになりました。普段からよく練習し、競い合ってきたライバル同士である2人の対戦は接戦の末に三宅さんが勝利しました。その後、2人はもう一人の順位決定戦の出場者との対戦にともに敗れてしまい、それぞれ準優勝、3位という結果に終わりました。


▲準優勝の表彰の様子

今回の大会は抽選に選ばれた72チームが出場する中で、ロボット研究部から出場した2チームが準優勝、3位という優秀な成績を収めることができ、他の部員たちも大会の配信を通じてこの活躍を目の当たりにし、それぞれの良い刺激になり、とても実りのある大会になりました。


▲3位の表彰の様子

大同大学レーシングカート部、全国大会で6年ぶりの快挙!

8月9日（土）愛知県豊田市にある石野サーキットにて開催された「全国学生カート耐久レース」で、大同大学レーシングカート部が見事全国優勝を果たしました!! これにより、同部は通算8回目となる全国制覇を達成しました。

レーシングカート部は、2019年8月15日に史上最多となる7度目の全国優勝を飾って以来、全国の舞台から遠ざかっていました。というのも、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、その後の全国大会は長らく開催が見送られてきたためです。そうした中で実現した、実に6年ぶりの全国大会で、全国の強豪が集うなか、本学レーシングカート部は確かな技術とチームワークを武器に、再び頂点に立ちました。新たな歴史を刻んだ今回の勝利は、長いブランクを乗り越えた部員たちの努力の賜物であり、部の伝統と実力を改めて全国に示す結果となりました。情報学部 情報デザイン学科 2年 部長の伊藤海翔さんは、「今回の優勝はゴールではなく新たなスタート。これからも挑戦を続け、さらに強いチームを目指していきたい」と語りました。


▲当日の様子

女子ハンドボール部

東海学生秋季リーグ戦で優勝しました

8月30日（土）～10月11日（土）に開催された、「令和7年度東海学生ハンドボール秋季リーグ戦」で見事、大同大学女子ハンドボール部が優勝をしました。

学長室で、理事長・学長に東海学生秋季リーグ戦優勝報告をしました。報告した学生は「最終戦は悔いの残る試合でしたが、優勝できてよかったです。」「次の全日本の大会では、昨年ベスト16だったので、それを超えたいです。応援よろしくお願いします!」と語っていました。


▲報告会の様子

【成績】
●女子1部優勝
大同大学

●最優秀選手賞
堀江 未来（大同大No.10） 総合情報学科4年

●ベストセブン賞
竹内 梢莉（大同大No.15） 総合情報学科4年
南條 沙莉（大同大No.18） 総合情報学科3年
福住 美幸（大同大No.19） 総合情報学科2年

研究・社会連携 推進センター主催

公開講座「まなびの広場」連続講座〈第1回〉を開催しました

10月4日（土）、本学研究・社会連携推進センター主催による公開講座「まなびの広場」連続講座の第1回を開催しました。当日は20名を超える参加者にご来場いただき、工学部 機械システム工学科 篠原主勲教授による「有松鳴海絞と技術伝承」と題した講演が行われました。講演では、有松鳴海絞の歴史や絞り技術の伝承の難しさ、本学におけるロボット開発の経緯、さらにロボットが絞り作業を行う様子が映像で紹介されました。自動化による効率化や、職人の手作業に匹敵する仕上がりを目指すうえでの今後の課題にも触れられ、あわせて篠原教授の専門分野の一つであるシミュレーション解析を活かした取り組みについても解説がありました。講演の最後には、有松鳴海絞の実演も披露され、受講者の目を惹きつけました。




▲絞り実演の様子

NAGOYAデザイン部 若手デザイナー・クリエイターのためのコミュニティ 第9回が大同大学で開催されました



10月13日（月・祝）、大同大学で、NAGOYAデザイン部 若手デザイナー・クリエイターのためのコミュニティ第9回が開催されました。第9回は、デザイナーの必須アイテム!「ポートフォリオの作り方」でした。NAGOYAデザイン部とは、東海エリアの若手デザイナーやクリエイターが集い気軽に交流できるコミュニティです。同じ目線を持つ仲間と出会いたい方、デザインを学びたい方など、どなたでも歓迎しています。

このNAGOYAデザイン部は、情報学部 情報デザイン学科 卒業生 横地洋介さんが講師として活躍しています。

第9回デザイナーの必須アイテム!
「ポートフォリオの作り方」詳細は、こちらから
https://www.idcn.jp/projects/circle/circle9/

建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻

ミラノ工科大学のルカ・ファブリス准教授をお迎えして公開講演会・合同講評会を開催しました!

5月9日（金）、ミラノ工科大学のルカ・ファブリス准教授をお迎えし、『公開講演会』および『C-SCAPE2024 合同講評会』を開催しました。講演会のタイトルは『Contemporary Architecture in Italy novelty as tradition（イタリアの現代建築ー伝統としての新規性ー）』であり、イタリアの気候風土から生まれたヴァナキュラーな建築から都市開発地区における最先端技術の紹介、西欧の街並み形成にいたるまで多岐に渡りました。講演後にはスライドで紹介された建築について議論の場が生まれ、複数の学生がルカ先生のもとに集まるなど、活気に満ちた時間となりました。

ルカ先生の講演後には、C-SCAPE2024合同講評会が開催されました。建築学科 建築専攻／インテリアデザイン専攻の4年生 計14名が英語でのプレゼンテーションに臨み、建築模型や図面、ダイアグラムなどの建築言語を通じて積極的な国際交流を図りました。法律や制度、空間解釈にいたるまで、日本とは異なる評価軸に苦戦するシーンも見られましたが、互いの文化や歴史、社会背景を知る良い機会となり、終始楽しく賑やかな合同講評会となりました。

ミラノ工科大学
https://www.dastu.polimi.it/dipartimento




▲合同講評会風景

機械工学科 前田研究室

鋳物コンテスト2024 大同大学前田研究室が方案設計した鋳物が「優秀賞」を受賞しました

公益社団法人日本鋳造工学会が主催する鋳物コンテスト2024において、工学部 機械工学科 前田研究室の有志学生が方案設計した鋳物が「優秀賞」を受賞しました。5月24日（土）に日本鋳造工学会が主催する第185回全国講演大会にてコンテストの表彰式があり、代表して大学院 工学研究科 修士課程 2年 三輪 建翔さんが表彰を受けました。また25日（日）のYFE（Young Foundrymen's Engineering）セッションにて、鋳物コンテスト提出作品に関する発表を三輪さんが行いました。



▲表彰式に出席した三輪さん

情報デザイン学科

学生のデザインした洗車機が商品化されました

情報学部 情報デザイン学科とタケウチビューテー株式会社との産学連携により行われている課外プロジェクトにて学生のデザインした洗車機が商品化されました。このプロジェクトは、16名の学生が4つのグループに分かれ、企画から商品化までのプロセスを学びながら、革新的なアイデアと若い感性を企業に提供、企業はそれらの大学のノウハウを洗車機に実装し、市場に送り出しました。参加した学生たちは、普段の大学生活では味わえない非常に貴重な体験となりました。

関連記事はこちらから
https://www.daido-news.jp/du_news/student/5965.html

総合情報学科

小学生向けスポーツイベント「スポーツを楽しもう!! レッツジュニアスポーツ」を開催しました



7月31日（木）、小学生向けスポーツイベント「スポーツを楽しもう!! レッツジュニアスポーツ」が大同大学石井記念体育館で開催されました。

このイベントは、大同大学と南区役所との包括連携協定に基づく共催事業として実施され、当日は総合情報学科の学生がポスター制作をはじめとする企画立案や運営を担当しました。当日は過去最多となる63名の小学生が参加し、学生とともにハンドボール、バレーボール、ボッチャの3種目を楽しみました。



ハンドボールでは、小学生たちはゴールキーパーをうまく避けながらシュートを打つことに挑戦。バレーボールでは、レシーブ練習のあとに試合形式でプレーを行い、得点を重ねるごとに学生とハイタッチを交わし、笑顔があふれる場面が見られました。また、ボッチャでは経験者の小学生も多く、ターゲットに近い位置に正確にボールを投げる姿に、大きな拍手が送られていました。

情報システム学科

愛知県警情報管理課の方に登壇いただきました


▲当日の様子

7月7日（月）、愛知県警察本部情報管理課の方々が本学に来学され、情報学部 情報システム学科の1年生を対象に、警察の仕事や情報技術の活用についてご講話いただきました。

講話の前半では、「警察とは何か」「警察官の役割とは」といった基本的な職種の説明から始まり、警察組織の中で情報管理課が果たす役割について、わかりやすくご紹介いただきました。学生たちは、普段ニュースなどで目にする「警察」という存在が、実際には多岐にわたる業務を担っていることを知り、理解を深めることができました。

後半では、情報管理課がどのように情報技術を活用して市民の安心・安全を守っているのか、具体的な事例を交えながらご説明いただきました。サイバー犯罪への対応や、情報システムの運用・保守、データ分析による犯罪予測など、情報システム学科で学ぶ内容が実際の業務に直結していることを実感できる内容でした。

「情報技術で安心・安全を守る」という使命のもと、技術の力が社会にどのように貢献しているのかを知ることができ、学生たちは自らの学びが将来のキャリアにどうつながるのかを考える貴重な機会となり有意義で充実した時間となりました。

建築学科 都市空間インフラ専攻

測量講義にてドローンの操縦体験

建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻では、名鉄ドローンアカデミーと連携してドローン操縦国家資格取得支援カリキュラムを運用しています。当該カリキュラムの一環として、測量学同実習の講義の中でドローンの操縦体験会を実施しました。本格的な機体を前に緊張した面持ちでしたが、講師のサポートのもとすぐに慣れ、操縦を楽しんでいました。土木業界・インフラ業界ではドローンが実務で活用されており、希望の学生は夏季休暇を活用して二等無人航空機操縦士（国家資格）の取得にチャレンジします。




▶操縦する様子

総合情報学科

教職員向けスポーツ教室「DUスポーツ」を実施しました



7月18日（金）、石井記念体育館にて、情報学部 総合情報学科主催で、教職員向けのスポーツ教室「DUスポーツ」が実施されました。本イベントは総合情報学科の学生が、教職員の運動不足の解消、健康な生活習慣の獲得を目的として、企画したものです。大学教職員、高校教職員、学園関係者計21名が参加しました。

参加者は体脂肪率や筋肉量を測定するインボディ測定を実施した上で、ストレッチなどのウォーミングアップ、3人1組になって体全体を使ったじゃんけん大会、体育館のコートに引かれた線上を決められた動き方で行うおにごっこ、風船やピンポン玉を用いたボール運び競走を行いました。どのプログラムも日常生活ではしない動きが取り入れられて楽しく運動ができるものとなっていました。メインとなるチーム対抗のゲームでは車いすポートボールが行われました。参加者のほとんどが初めての競技用車いすの操作に四苦八苦しながらも、拮抗した試合展開にハラハラしながら楽しんでいました。



▲車いすポートボールを楽しむ参加者

かおりデザイン専攻

高齢者はつらつ長寿推進事業にて学生が講師を務めました





7月29日（火）、南区白水コミュニティセンターにて、「高齢者はつらつ長寿推進事業」の一環として、高齢者向けの講座が開催されました。講師を務めたのは、建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻の学生13名です。この事業は、名古屋市南区社会福祉協議会が主催し、高齢者の仲間づくりや地域活動への参加を促進しながら、介護予防を目指すことを目的としています。

当日は23名の高齢者が参加し、臭気や香り、嗅覚の仕組みに関する説明や嗅覚テストを受けた後、実際にフレグランスソルトづくりを体験しました。参加者は、学生のアドバイスを受けながらフレグランスソルトづくりに取り組み、和やかな会話が交わされる中で、終始笑顔あふれる賑やかな雰囲気となりました。参加者からは、「楽しかった」「香りの奥深さを知ることができた」といった感想も寄せられ、好評を博しました。

2025年大学プロモーションビデオが完成しました!

2025年大学プロモーションビデオが完成しました! 大学プロモーションビデオは、情報学部 情報デザイン学科 冨永研究室にて製作されており、2025年度のPVはドローンを使って撮影しています。このビデオは企画、撮影、編集等全て学生の手によって製作されています。ぜひご覧ください!

下記URLから2025年版を含む、歴代プロモーションビデオが視聴できます

https://www.daido-it.ac.jp/gallery/

情報デザイン学科の学生と吉田雅彦准教授が関わっている展覧会が開催されました

情報学部 情報デザイン学科 吉田雅彦准教授が企画・キュレーション（作家選定・招待）などのイベントディレクターとして関わっている企画「新美南吉の言葉と風景」展覧会が、開催されました。同学科 吉田研究室の学生もワークショップの企画やイベント運営、ワークショップ支援などで参加しました。また、同学科 太田晶非常勤講師も参加しました。

関連記事はこちら

https://www.daido-news.jp/du_news/teacher/7217.html





▲展覧会会場

都市空間インフラ専攻

再生アスファルト開発に関する現地視察を行いました

建築学部 建築学科 都市空間インフラ専攻の学生が自主的に学外活動等を行う『どかんクラブ』は、昭和土木株式会社と連携して産廃・廃材の再利用による持続可能なアスファルトの開発を行っています。

今回は常滑焼の廃材を活用するにあたり、常滑市役所の全面協力のもと現地視察を行いました。



▲本学OBの代表と @市田建設

当日は「常滑焼の歴史や特徴（とこなめ陶の森資料館）」の学習、「常滑焼の製造過程（キング砥石）」と「産業廃棄物の処理過程（市田建設）」の見学を行いました。

また、本学OB・OGの市役所職員と一緒に昼食をとり、就職活動や公務員の仕事に関する意見交換も行うなど充実した視察となりました。



▲キング砥石の視察



▲資料館での学習

DAIDO VISION 2030 高大連携ハンドボール地域交流戦を行いました



10月12日（日）、大同大学 石井記念体育館で、情報学部 総合情報学科 佐藤研究室 卒業研究の一環として、地域と学生をつなぐスポーツイベント「DAIDO VISION 2030 高大連携ハンドボール地域交流戦」を開催しました。高校・大学のハンドボール部による白熱の試合に加え、音楽と演出で盛り上がる一日となりました。



卒業生インタビュー
Graduates of Daido University



今回は、大同大学の講義室、X棟の学生ホール、事務室などの机や椅子を作ってもらっている愛知株式会社で働く卒業生にインタビューしました!

愛知株式会社
小石 遥也
2020年3月
情報学部 情報デザイン学科
プロダクトデザイン専攻卒業
2025年12月現在
愛知株式会社 入社6年目

―― 現在勤務している企業を紹介してください。

公共施設や教育施設向けの家具を中心に展開するパブリックファニチャーブランドで、「グッドデザイン賞」をはじめ「reddot design award」「iF design Award」等、海外の著名なデザインアワードを毎年多数受賞している専門メーカーです。

国内市場及び欧米を中心に、世界約30か国以上に製品を輸出しております。

―― 現在従事している仕事内容を教えてください。

新製品開発のデザイン及び設計に関わっており、モックアップ製作やテストラボでの試験検証等も行っております。

―― 現在のお仕事におけるやりがいを教えて下さい。

家具は他のプロダクトとは異なり構造そのものをデザインする為、構造設計とデザインを常に両立させる必要があり、そこに奥深さとやりがいを感じております。

また、自分が一生行くことの無い場所、一生出会うことの無い人々の生活に関わる存在である椅子を作ることは、どこか自分の分身を生み出すようでもあり、ものづくりならではの醍醐味を感じます。

―― その企業に就職したきっかけ、経緯を教えてください。

もともと大学入学時より椅子が好きで、椅子をデザインする仕事に就きたいとの思いはありました。

いざ就職活動が始まり様々なメーカーを調べていく中で、大規模な公共施設や教育施設などに向けたデザイン性の高い家具を展開する愛知株式会社の存在を知り、ホームユース家具との市場のスケール感の違いに魅力を感じました。

また製品のデザインもさることながら、カタログからホームページのデザインに至るまで徹底されたコンセプトの世界観に惹かれ、愛知株式会社への入社を決めました。

―― 大学での学びはどのように生きていますか?

課題ごとに求められた「100案スケッチ」では、一つの案を起点にパターンを派生させていく思考方法や、手描きでものを描く習慣が身につきました。

仕事の場においても、打ち合わせ中などその場で自分のイメージを共有する際にすぐに絵にすることで、言葉にするよりも伝わるコミュニケーションツールとしても機能します。絵を描くこと自体が目的ではありませんが、スケッチを描く習慣が身についたのは現在の仕事にも活きています。

―― これからの目標を教えて下さい。

デザイン・機能性共に世界水準の家具を生み出し、あらゆる空間、あらゆる人々の日常で使われることを目指して頑張りたいです。

企業 DATA

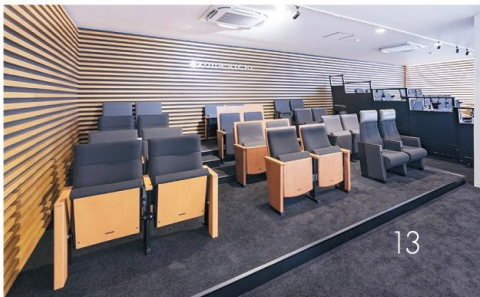
愛知株式会社
〒461-0003
名古屋市東区筒井3-27-25

設　立	1939(昭和14)年12月23日
代 表 者	代表取締役社長 島本健司
資 本 金	9800万円
従業員数	220人
事業内容	教育施設家具、会館・庁舎・体育館などの公共施設家具、ホテル・劇場・ホールなどの民間施設家具の製造販売ならびにこれらに付帯する業務

―― 在学生に一言お願いします。

学生時代は課題や卒業製作など、一つのテーマに対して純粋にデザインすることのみに集中して時間をかけられる貴重な時期だと思います。3Dプリンタ やCNC切削機などの設備も活用し、頭で考えるだけでなく実際に物を作りながら考えられる環境もあります。是非、この貴重な期間を存分に味わい尽くしてください。



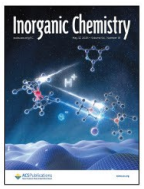


先生大活躍！

吹田和嗣教授（機械システム工学科）



「人とくるまのテクノロジー展2025」に共同出展しました



田中宏昌教授（教養部）

研究論文がInorganic Chemistry誌に掲載され表紙を飾りました



吹田和嗣教授（機械システム工学科）

日経クロステックの取材を受けました



押山晶子准教授（情報デザイン学科）

ミッドジャパン音の芸術祭に出品しました

中村裕哲准教授（総合情報学科）



日本貿易学会第64回全国大会にて研究報告しました

宮嵜靖大准教授（建築学科 都市空間インフラ専攻）

連名著書の論文が令和6年度土木学会論文奨励賞を受賞しました

横山弥生特任教授（情報デザイン学科）



長崎のミュージアムで個展が開催されました

鷲見哲也教授（建築学科 都市空間インフラ専攻）



名古屋市南区総合水防訓練で講演しました

舟橋慶祐教授（情報デザイン学科）



大府市大学等連携講座「おおぶアカデミー」の講師を務めました

光田 恵教授（建築学科 かおりデザイン専攻）



令和7年度環境保全関係功労者表彰式で表彰されました

棚橋秀行教授、宮嵜靖大准教授、鷲見哲也教授（建築学科 都市空間インフラ専攻）

FM AICHI『エンジ名古屋 Road To Connect』に出演しました

坪井涼教授 萩野将広准教授（機械工学科）



名古屋市立工業高等学校の名市工ものづくりフェアに出展しました

前田安郭教授（機械工学科）

公益社団法人日本鋳造工学会 第185回全国講演大会で実行委員長を務めました



鷲見哲也教授（建築学科 都市空間インフラ専攻）



15年前の可児川豪雨アンダーパスの事故についてテレビと新聞の取材を受けました

橋口宏衛講師（機械システム工学科）



姫路科学館の特別展「はたらくドローン」で、ドローンを展示しました

嶋田喜昭教授（建築学科 都市空間インフラ専攻）



『[新版]地域交通の計画 ―政策と工学』を執筆しました

佐川眞人先生



本学特別客員教授の佐川眞人先生が「愛知の発明の日」で講演しました

柚谷准教授（機械工学科）

設計工学会 特集企画賞を受賞しました

中村裕哲准教授（総合情報学科）



単著『サービス産業の国際戦略提携 1976~2022: テキストマイニングと事例で読み解くダイナミズム』が刊行されました

岡田心教授（情報デザイン学科）



サスティーンナゴヤのネットワーキングセミナーにファシリテーターとして参加しました

橋口宏衛講師（機械システム工学科）



愛知県が実施する「ドローンエンジニア育成コース」で講師を務めました

吹田和嗣教授（機械システム工学科）



EXPO2025大阪 GISHW Days 国際シンポジウムでセッションチェアしました!

宮島千代美教授（情報システム学科）、吹田和嗣教授（機械システム工学科）



異分野交流会が行われました

鈴木繁聡講師（教養部）

日本個性化教育学会のシンポジウムに登壇しました

橋口宏衛講師（機械システム工学科）



国際ドローン展で講演・展示しました

事務部長コラム

剣道

己の心を磨き、人としての道を学ぶ



大脇 崇浩
57歳
学校法人
大同学園理事
大学事務部長

1990年4月　入職
学生部学生課に配属
入試・広報室、学務室、経理室勤務を経て、
2021年4月　大学事務部長
2025年6月　大同学園理事就任

2018年11月　剣道七段昇段

私と剣道との出会いは、今から約五十年前、小学三年生の頃にさかのぼります。始めた理由ははっきりとは覚えていませんが、母に連れられて近くの警察署の道場へ行った日のことは、昨日のことのようによく覚えています。当時の私は怖がりで、どちらかといえば剣道を長く続ける性格ではありませんでした。それでも今日まで続けてこられたのは、剣道が私に多くの学びと気づきを与えてくれたからにほかなりません。今回、このように自らを振り返る機会を与えていただいたことに、心より感謝いたします。

剣道は、剣を正しく扱うための理論と技術を学び、勝敗を決するためのものではありません。剣を通じて己の心を磨き、人としての道を学ぶ「人間形成の道」であります。竹刀を交える一瞬一瞬の中に、礼節、克己、感謝といった人生の本質が凝縮されています。剣道において最も根本となるのは「礼」です。道場に入る際の一礼、相手に向かうときの一礼、そして稽古を終えた後の一礼――そのすべてに、相手や場所への敬意が込められています。礼を正すことは、心を正すことに通じます。どれほど技が優れていても、礼節を欠いては真の剣士とは言えません。

私は「打って反省、打たれて感謝」という言葉を大切にしています。自らが打てたときは驕らず、その過程を省みて反省し、打たれたときは己の未熟さに気づかせてくれた相手に感謝する。勝敗にとらわれず、稽古を通じて自らを磨く姿勢こそが、人間形成の核心であると感じています。また、「負けに訳あり、勝ちに不思議な勝ちあり」という言葉も大切にしたい教えです。負けには必ず理由があり、勝ちには時として偶然が含まれます。ゆえに、勝っても驕（おご）らず、負けても挫（くじ）けず、常に己を省みる謙虚さが求められます。この心は剣道に限らず、人生においても重要であると思います。剣道は、技を磨くとともに、平常心を養い、誠実に生きる力を培う道でもあります。厳しい稽古の中で己の弱さと向き合い、それを克服しようと努める姿勢が、人を成長させます。礼節と感謝を忘れず、常に真摯に生きる――その歩みの果てにこそ、真の「剣の道」があると信じています。剣道を学ぶことは、心を学ぶこと。生涯をかけて己を磨き続けることこそが、剣士にとって最大の喜びであると感じています。

最後に、剣道の修行で培った心構えは、生きる力となります。謙虚さと誠実さを忘れず、一歩ずつ己を磨き続ける――その姿勢こそが、剣道を志す者の誇りであり、人生を豊かにする道であると信じています。









人　事

●異動

【法人本部・大学】
〈事務職員〉(2025.6.1)
松井 健之　(法人本部 大学事務部 教務室長)
都築 基　(法人本部 総務部 総務室 主任部員)
大石 勇起　(法人本部 総務部 人事室)
徳永 彩乃　(法人本部 経理室)

【法人本部】
〈事務職員〉(2025.10.1)
西村 勇樹　(法人本部 総務部 管財室長)

【高校】
〈事務職員〉(2025.10.1)
高橋 昌弘　(法人本部 総務部 高校事務室長)
肥田 聡　(法人本部 総務部 高校事務室 主席部員)

【大学】
〈事務職員〉(2025.12.1)
安藤 空　(法人本部 大学事務部 学生室)

●採用

【法人本部・大学】
〈嘱託職員〉(2025.8.1)
鍵谷 和広　(法人本部 総務部 管財室)

〈事務職員〉(2025.9.1)
清水 直美　(法人本部 大学事務部 学生室)

【法人本部】
〈事務職員〉(2025.10.1)
児玉 崇　(法人本部 法人副本部長)

●退職

【大学】
〈教育職員〉(2025.9.30)
高橋 之　(建築学部 建築学科 准教授)

【大学】
〈事務職員〉(2025.11.30)
相原 美輝　(法人本部 大学事務部 図書館室)

新任教員紹介

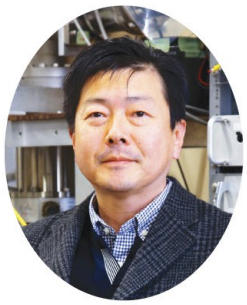


谷村 弘貴
准教授
情報学部
情報デザイン学科

企業・商品のイメージ構築を主としたグラフィックデザインの他、商品開発のアドバイス業務にも取り組んできました。実務経験で培った知識・技術を用いてマイナスをプラスにするデザインを研究したいと考えています。

退任教職員よりメッセージ

橋本 雄一 教授　工学部 電気電子工学科



「飲水思源」という言葉は、「水を飲む者は、その源(井戸を掘った人の苦労)に思いを馳せなさい」という意味です。大学に所属する者としては、「教員に教育研究活動で師事した学生は、社会に出て一角の人物になった暁には、恩師のことを思いだし、感謝の念に尽きない日々をおくる」と解釈したいところですが、皆さんは如何でしょうか?

近藤 恵美 教授　建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻



大変短い在職期間でしたが教職員の皆様方の温かい眼差しと、学生の皆さんの溌溂とした姿に励まされ充実した時間を過ごすことができました。人生の終盤戦、かけがえのない出会いといつまでも紡いでいたい糸に巡り合えたことはこの上ない幸せです。皆様のご活躍と大学の発展をお祈りしております。ありがとうございました。

颯田 尚哉 教授　建築学部 建築学科 かおりデザイン専攻



かおりデザイン専攻でお世話になりました颯田です。着任がコロナ禍の始まりで、講義は遠隔となり、人の交流が制限され、大学でポツンとほぼ誰とも会話せず、過ごしていました。通常の状況であれば、もっと大同大学にお役に立てたかもしれませんが、定年によりお別れとなりました。皆さまの益々のご発展を祈念いたします。

加藤 淑恵 さん　保健室 養護教諭



大同大学保健室にて楽しくお仕事ができ、充実した20年間でした。心より感謝申し上げます。学生の皆さん、健康第一で、失敗を恐れず、色々と経験を積んで学生生活を楽しんでください。陰ながら大同大生を応援しています。最後に、学園の益々のご発展と皆さまのご活躍をお祈り申し上げます。大変にお世話になりました。

「DAIDO CAMPUS」の表紙を情報デザイン学科3年生の 森内英万さんがデザインしました

この表紙のデザインは、子供のころに遊んだ積み木から、少し大きくなり表現幅が広がって段ボールで作った建物になり、最後はしっかりとしたビルになるその過程を通して変化し成長していく過程を表現しました。また、ビルがまだ完成しておらず組み立てている最中なのは、成長している途中でまだまだこれから進化していくそんな意味を込めました。建物の色は素材や時代がバラバラなので配色も建物ごとに違いますが、背景の色は大同大学の青色と雲一つない澄んだ空をイメージしていて、これから先の未来を明るく前向きに進んでいけることを表現しました。大同大学ではたくさんの作るであふれています。その作るの積み重ねが実って大成していくようにそんな思いで表紙のデザインをしました。



大同大学 DAIDO UNIVERSITY　DAIDO CAMPUS ISSUE 113　2025年12月12日発行(季刊)
編集・発行／大同大学入試・広報室　〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6117 FAX052-612-0125 E-mail koho@daido-it.ac.jp URL https://www.daido-it.ac.jp